

(様式1)

研修・視察報告書

令和元年11月22日

みどり市議会議長

大澤 映 男 様

みどり市議会議員 阿左美 守 椎名祐司

藤生吉顕・須藤日米代・丹羽あゆみ

下記のとおり研修・視察が終了したので報告します。

期間	令和元年11月5日(火)～令和元年11月7日(木)
研修・視察先 及び所在地	1. 滋賀県彦根市「愛のりタクシー」について (彦根市都市建設部交通対策課) 2. 京都府京都市「東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営に ついて」(京都市立東山泉小中学校東校舎) 3. 京都府京都市琵琶湖疎水記念館・元離宮二条城事務所・宮内庁京 都事務所(施設見学)
参加者氏名	阿左美守・椎名祐司・藤生吉顕・須藤日米代・丹羽あゆみ
目的	別紙
概要	別紙
成果・所感	別紙

※「目的」「概要」「成果・所感」は別途書式に替えることができる。

※「成果・所感」は、参加者全員が記入する。



○調査年月日 令和元年11月5日（火）～7日（木）

○調査目的地

1. 滋賀県彦根市： 愛のりタクシーについて

彦根市は、平成22年3月、周辺の愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町と湖東圏域公共交通活性化協議会を設立。彦根市の連携計画の対象地域を拡大し、1市4町で湖東圏域地域公共交通総合連携計画を策定し、湖東圏域で連携して公共交通の活性化に向けた取り組みを行っています。

愛のりタクシーは、主に高齢者や自動車を利用されない方の日常生活に必要な移動（通院・買い物等）の支援を目的とした「予約型乗合タクシー」として運行されています。

運行地域を日常生活に必要な最低限の活動を行える拠点施設（スーパー、病院等）に限定し、地域住民の意見を参考にしながら、効率的かつ利便性が高まるような運行ダイヤを設定。そのうち、運行するのは予約された便の、予約があった停留所間のみで、予約のない停留場は、路線上であっても停車しないデマンド運行で、タクシー事業者（近江タクシー）に運行を委託しています。

運賃（1人当たり）は、居住区域の隣接エリア内は400円、それを越えるエリアへは800円。メーター運賃と利用者が支払う運賃との差額を行政（乗車地を管轄する市町）が負担しています。例えば、メーター運賃3,000円、運賃400円区間を乗客2人で運行した場合、利用者負担分は800円で差額の2,200円は運行経費（行政負担分）となります。

平成30年度の利用者は約4万人、行政負担額は6千万円で、高齢者の増加に伴い、今後、ますます多くの方に利用されることが見込まれるとのことです。

課題としては、運行回数が増加すると行政負担が増える仕組みとなっているため、行政（市町）の支出を抑制する取り組みが必要とのことです。

さらに、運行の効率を向上させる必要があるため、1便あたり利用者数（乗合率・KPI）を現状の1.5人から目標値の1.8人にすることを目指して、今年4月1日から、複数人で乗車するよう、予約した人の運賃を割り引く制度「ふく割り」を開始しています。ふく割り導入後、約6か月経過していますが、効果は上がっているとのことでした。

2. 京都府京都市： 東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営について

東山泉小中学校は、京都市東山区南部地域にある3小学校（一橋・月輪・今熊野）と月輪中学校の4校を統合して開校した小中一貫校。小1から小5までの5年間は一橋小跡地に新築した西学舎で学び、小6から中3までの4年間は月輪中学校を増改築した東学舎で学んでいます。当初は一橋小学校跡地に一体型の校舎を建てる予定が、景観条例等の制約で建てられないことと、月輪中学校の校舎が築6年と新しいことから、新校舎を「西学舎」、月輪中を活用した方を「東学舎」として分離型にしたとのことでした。

小中を繋ぐ「学級担任制と教科担任制」については、全教職員に兼務発令が行われ、6年生は国語、社会、算数以外は中学校籍教員による教科担任制。5年生は理科、家庭、音楽、英語活動で教科担任制。1年生からは、英語活動を開始し、中学校籍教員による指導を行っています。

中1ギャップをなくすため、6年生から、年5回の定期考査（7～9年生と同形式、同形態）として、国語、算数、社会の3教科から予行演習を実施。学期末には、5教科。最後の予行演習では8教科プラス英語のテストを行っています。さらには、教科ばらばらの縦横の問題用紙ではなく、統一した問題用紙にしているとのことでした。

開校前に不安を抱える保護者からは、中学生と小学6年生が、同じ校舎で過ごすことに「オオカミの群れに、仔羊を入れるのか」という心配の声が上がったとのことでした。

運動会では、西学舎の1年生の児童と東学舎の生徒が一緒に玉ころがし競技を行う様子をお話いただきました。競争に勝とうと思うなら、生徒が転がした方がいいが、決して手は出さないで児童を後から見守っているとのことでした。

学校マネジメント体制として、学校長は1名で、週3日を西学舎に、週2日を東学舎に出勤。西学舎に副校長と教頭の2名、東校舎に教頭1名を配置しています。

今回の視察では、直接教育現場の生の声を伺うことができたと同時に、校長先生の力強いリーダーシップを感じてきました。

3. 京都府京都市琵琶湖疎水記念館・元離宮二条城事務所・宮内庁京都事務所は、施設見学を行いました。

みどり市議会議員 阿左美 守

<所感>

1. 滋賀県彦根市： 愛のりタクシーについて

利用者の利便性は良いが、行政負担が、おおいくなり
みどり市としては、対応が難しいかと思われます
更迭でバスの運営形態を変更検討すれば良いと思う

2. 京都府京都市： 東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営について

今津敏一校長先生説明でした。
教育に対する斬新な考えと生徒達の将来にむけた教育に
取り組んでいた。みどり市に、おいても今後、小中一貫校の考えだけでなく
色々なパターンを研究すべきと感じた

③ 京都府京都市琵琶湖疎水記念館。元離宮二条城事務所。
官内庁京都事務所(施設見学)

説明はなく、施設見学だが先人の考えと実行力は京都市の発展を
みずえた。琵琶湖の用水をいれた事業の大きさに感銘を受けた
現在の京都市の発展につながっている。

みどり市議会議員 椎 名 祐 司

<所感>

1. 滋賀県彦根市： 愛のりタクシーについて

平成30年度のみどり市電話でバス運行事業は、乗車人員約2万3千人、運行経費約4千349万円、運行収入約620万円となっています。

愛のりタクシーの平成30年度の利用者は約4万人、行政負担額は6千万円で、高齢者の増加に伴い、今後、ますます多くの方に利用されることが見込まれるとのことです。

彦根市では、運行回数が増加すると行政負担が増える仕組みとなっているため、行政（市町）の支出を抑制する取り組みが必要とのことでした。

みどり市においても、彦根市で取り組んでいる「愛のりタクシー」と同じように、1便あたり利用者数（乗合率・KPI）を高めて、運行の効率を向上させる必要があります。

彦根市で導入した、ふく割り制度（複数人で乗車すると予約した人の運賃を割り引く制度）や日常生活に必要な拠点施設（スーパー、病院等）に限定した定時・定路線の運行ダイヤを設定していくなどの工夫も重要な課題であると痛感しました。

2. 京都府京都市： 東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営について

現在、みどり市では、東地区の小中一貫教育に向けて、カリキュラムの作成や教員配置について準備検討を行っています。

今回の東山泉小中学校では、義務教育9年間の連続性として、系統性のある教育課程を編成し、「学びのスタンダード」の手法を用いた授業を行っています。

中一ギャップの解消として6年生からの定期考査をはじめ、6年生からの部活動の実施や生徒指導の在り方として、授業の始め方、終わり方、呼名の仕方（全員さんづけで呼ぶ）、授業にふさわしい言葉遣いなど大変参考になりました。

説明していただいた、今津校長先生は、月輪中学校教頭時代に京都市教育委員会指導部 東山泉小中学校教育企画推進室指導主事を兼務されたことから、「東山泉」の開校に向けて尽力されてきた経緯がありました。

めざす東山泉像として、小学校のいいところ、中学校のいいところを融合して新しいものを作る。小学校の文化・中学校の文化ではなく「東山泉の文化」を作らないと発展しない。赤と青の紫ではなく、赤と青で緑を目指したいという校長先生の熱い言葉に深く感動しました。

○調査年月日 令和1年11月5日(火)～7日(木)

○調査目的地

1. 滋賀県彦根市：愛のりタクシーについて

彦根市は、平成22年3月、周辺の愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町と湖東圏域公共交通活性化協議会を設立。彦根市の連携計画の対象地域を拡大し、1市4町で湖東圏域地域公共交通総合連携計画を策定し、湖東圏域で連携して公共交通の活性化に向けた取り組みを行っています。

愛のりタクシーは、主に高齢者や自動車を利用されない方の日常生活に必要な移動(通院・買い物等)の支援を目的とした「予約型乗合タクシー」として運行されています。

運行地域を日常生活に必要な最低限の活動を行える拠点施設(スーパー、病院等)に限定し、地域住民の意見を参考にしながら、効率的かつ利便性が高まるような運行ダイヤを設定。そのうち、運行するのは予約された便の、予約があった停留所間のみで、予約のない停留所は、路線上であっても停車しないデマンド運行で、タクシー事業者(近江タクシー)に運行を委託しています。

運賃(1人当たり)は、居住区域の隣接エリア内は400円、それを超えるエリアへは800円。メーター運賃と利用者が支払う運賃との差額を行政(乗車地を管轄する市町)が負担しています。例えば、メーター運賃3,000円、運賃400円区間を乗客2人で運行した場合、利用者負担分は800円で差額の2,200円は運行経費(行政負担分)となります。

平成30年度の利用者は約4万人、行政負担額は6千万円で高齢者の増加に伴い、今後、ますます多くの方に利用されることが見込まれるとのことです。

課題としては、運行回数が増加すると行政負担が増える仕組みとなっているため、行政(市町)の支出を抑制する取り組みが必要とのことです。

さらに、運行の効率を向上させる必要があるため、1便あたり利用者数(乗合率・KPI)を現状の1.5人から目標の1.8人にすることを目指して、今年4月1日から、複数人で乗車するよう、予約した人の運賃を割り引く制度「ふく割り」を開始しています。ふく割り導入後、約6か月経過していますが、効果は上がっているとのことでした。

地域住民にとっては格安料金で目的地へ移動でき、タクシー業者にとっても事前に予約が入り代金も利用者からの不足分は行政から補ってもらえるのでまさにWIN+WINの関係と思える反面、朝など混み合う時間帯によそから来たもの(観光客等)が予約なしで路線外の目的地へ利用したい場合や緊急の呼び出しの場合などに、タクシーの台数が足りなくなる可能性もあるため、予備の車両を確保するなど課題はある。

みどり市の電話でバスの運営形態においてもおおいに勉強になる視察であったと思う。

2. 京都府京都市：東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営について

東山泉小中学校は、京都市東山区南部地域にある3小学校（一橋・月輪・今熊野）と月輪中学校の4校を統合して開校した小中一貫校。小1から小5までの5年間は一橋小跡地に新築した西学舎で学び、小6から中3までの4年間は月輪中学校を増改築した東学舎で学んでいます。当初は一橋小学校跡地に一体型の校舎を建てる予定が、景観条例等の制約で建てられないことと、月輪中学校の校舎が築6年と新しいことから、新校舎を「西学舎」、月輪中を利用した方を「東学舎」として分離型にしたとのことでした。

小中を繋ぐ「学級担任制と教科担任制」については、全教職員に兼務発令が行われ、6年生は国語、社会、算数以外は中学校籍教員による教科担任制。5年生は理科、家庭、音楽、英語活動で教科担任制。1年生からは、英語活動を開始し、中学校籍教員による指導を行っています。

中1ギャップをなくすため、6年生から、年5回の定期考査（7～9年生と同形式、同形態）として、国語、算数、社会の3教科から予行演習を実施。学期末には、5教科。最後の予行演習では8教科プラス英語のテストを行っています。さらには、教科ばらばらの縦横の問題用紙ではなく、統一した問題用紙にしているとのことでした。

開校前に不安を抱える保護者からは、中学生と小学6年生が過ごすことに「オオカミの群れに仔羊を入れるのか」という心配の声が上がったとのことでした。

運動会では、西学舎の1年生の児童と東学舎の生徒が一緒に玉ころがし競技を行う様子をお話いただきました。競争に勝とうと思うなら、生徒が転がした方がいいが、決して手は出さないで児童を後ろから見守っているとのことでした。

学校マネジメント体制として、学校長は1名で、週3日を西学舎に、週2日を東学舎に出勤。西学舎に副校長と教頭の2名、東学舎に教頭1名を配置しています。

めざす東山泉像として、小学校のいいところ、中学校のいいところを融合して新しいものを作る。小学校の文化・中学校の文化ではなく「東山泉の文化」を作らないと発展しない。赤と青の紫ではなく、赤と青で緑を目指したいという校長先生の熱い言葉に深く感動しました。

みどり市においても小中一貫校を今後進めるうえで、参考になる学校見学であったと思う。必ずしも5：4型が全てではなくいろいろなパターンが全国には例があると思われるのでこの地域に合う形を他にも研究したい。

3. 京都府京都市琵琶湖疎水記念館・元離宮二条城事務所・宮内庁京都事務所は施設見学を行いました。

<所感>

1、滋賀県彦根市； 愛のりタクシーについて

平成 21 年に、みどり市が電話でバスを開始しました。免許返納した高齢者が年々増加する傾向にある中、通院、買い物、役所への用事など、移動手段として、大切な役目を担う電話でバスの運行は重要な役目を果たします。市民の皆様から様々な意見がある中、10 年を経過し、再考する時期ではないかと考えます。市民の意見を取り入れ、厚生病院への乗り入れ、3 日前予約など、改良をして、市民の要望に応じていますが、まだまだ改良の余地があるかと考えます。彦根市の愛のりタクシーは路線、ダイヤをあらかじめ設定し、そのうち、運行するのは予約された便の、予約のあった停留所のみ停車、予約のない停留所は路線上であっても停車しない。など参考に取り組みを実施しています。みどり市の電話でバスのこれからの運行計画にも参考になり、考えるべき視察であったと感じました。この視察を無駄にすることなく生かしていきたいと思います。

2. 京都府京都市；東山泉小中学校施設分離型小中一貫校の運営について

みどり市東町の小中学校が小中一貫校を予定しており、検討に入ったという説明を執行部より受けました。来年から開始というわけではないと思いますが、近い将来に実行しなければならない事業であると思います。まさしくタイムリーな視察であったと思います。

校長先生自らが説明を頂き、学校内も案内していただきました。

生徒数が 734 人とみどり市とは、規模が異なりますが、基本的には同じです。中一ギャップの解消、いじめの軽減、など参考にすべき事項が満載していました。研修の成果を今後の東町の取り組みに生かせるよう努力をしていきたいと思います。とても有意義な研修をさせて頂きました。

1. 彦根市 「愛のりタクシー」について

彦根市をはじめ、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町との湖東圏域1市4町にて設立された湖東圏域公共交通活性化協議会の運営により、現在、予約型乗合タクシー「愛のりタクシー」が運行されています。

予約型乗合タクシーとは、一般のタクシー車両を使用して路線バスと同じように運航時刻や運行ルートが設定され、予約があった時のみ運行する小型バスのようなもので、その停留所には各自治区の要望を反映し、住民どうしで決めたところに設置するという経緯もありました。

エリアは買い物、通院という目的を主に運行され、料金は居住するブロックとその隣接エリアへの移動は400円、2ブロック以上離れたエリアへの移動は800円という設定となっています。

平成30年度の利用者数は約4万人。今後も増加傾向ですが、それに伴い行政の負担も増加します。平成30年度の行政負担額は6千万円。今後の対策として1回の電話で2人以上の利用をまとめて予約し、同じ停留所から乗車した場合に利用運賃が半額となる「乗りあつて半額 ふく割」のスタートや、使い方がわからない方のための出前講座の実施など、効率的な利用の促進に向けた取り組みが行われています。

みどり市議会議員 丹羽 あやみ

2. 京都市 「東山泉小中学校」について

平成26年、京都市東山区南部地域にある3つの小学校と1つの中学校をあわせた施設分離型小中一貫校、東山泉小中学校が開校しました。

各家庭に「シラバス 学びのみちしるべ」を配布し、学校と家庭との共有を大切にするなど、様々な取り組みが行われています。

義務教育の前期5年間で西学舎で、後期4年間で東学舎で学ぶ5－4年制の小中一貫教育を実施。小中のスムーズな接続のため、6年生で制服を着用して出席する「すだちの式」の挙行や、定期テストを6年生から導入し、そのスタイルは京都府立の高等学校入試と同じ書式にするなどの工夫がなされています。

校内にはコミュニケーション能力育成の拠点となるべき自発的な学習ができるようにと、個別ブースや府立高校の情報がみられる自学自習室などの教室があり、人数によって変えられる机の形など細かな取り組みも見られました。

そして何より印象的だったのは、東学舎と西学舎で差が出ないよう「こっち」、「あっち」などの単語を使わないようにしようという言葉遣いまでの配慮など、校長先生をはじめとする先生方の熱意が感じられる学校運営でした。

3. 京都市琵琶湖疎水記念館・元離宮二条城事務所、宮内庁京都事務所は、施設見学を行いました。